



退任のごあいさつ

前寄居町長 花輪利一郎

暦の上では秋とは申せ、いまだ暑さ厳しき折、皆様にはご健勝にてお過ごしのことと拝察申し上げます。さて、私は平成26年8月28日、多くの皆様のご支援をいただき、第7代寄居町長に就任させていただきました。2期8年にわたり「誠実・公正・実行・信頼」を信条として町政発展のため誠心誠意取り組んでまいりましたが、大過なく町政の舵取りを終えることができたのは、町民の皆様のご理解と温かいご支援のお陰と心から厚く御礼を申し上げます。就任以降、自治体を取り巻く環境は刻々と厳しくなる中、私は少子高齢化による本格的な人口減少に備えるべく「寄居創生」を掲げ、まずは女性活躍のための支援や健康長寿への取り組みに重点を置き、諸施策を実行してまいりました。平成29年度からは、町の全体計画である第6次寄居町総合振興計画を策定、スタートさせ、これに基づき「可能性∞（むげんだい） 笑顔満タン よりいまち」を町の目指す姿として、子育て・教育環境の充実や賑わい・活力ある地域産業の創出、国際交流等、多種多様な取り組みを戦略的・体系的に展開してきたところであります。

この間、寄居町も多方面から注目されるようになり、また、それなりの評価をいただくことができたと思っております。 令和4年8月28日をもって寄居町第8代町長に就任いたしました、峯岸克明でございます。どうぞよろしくお願いたします。 平成23年5月に寄居町議会議員に当選以来11年間、議員の立場から町の発展と町民福祉の向上に努めてまいりましたが、これからは、立場こそ変わりますが「ふるさと寄居町」にかける情熱は変わることはありません。町長として、先人が築かれた素晴らしい蓄積の上に「誇りある美しい町、寄居」を築いてまいります。 花輪前町長の8年間は、長年の懸案であった寄居駅周辺整備をはじめとする、中心市街地活性化を有言実行のもとに推進するとともに、健康長寿や教育の充実、女性の活躍推進に努められた実り多い8年間でありました。 また、想定外の出来事であった新型コロナウイルスにもいち早く対応され、ワクチン接種ではその先頭に立たれるなど、町民ファーストに徹した公正無私な姿は、権力におごらない、執行部の長としての真骨頂であったと思います。花輪前町長から学ばせていただいたことを、これからのまちづくりりに生かしてまいります。

経済・教育・健康長寿 私は、町民の皆様が一番身近な自治体としての町の施策の柱は、経済、教育、健康長寿であると思っております。 ①まずは経済。寄居町で生計を立てるには、稼げる職場、優良な産業・企業、独立して起業できる環境が不可欠です。埼玉県は「所得の高い県南・所得の低い県北」という構図が固定化しつつあります。町民の皆様の家計を豊かにしてゆくとともに、町政の最大の使命のひとつです。 ②二つ目は教育。令和元年に寄居町で生まれた子どもは160人。平成元年の半数、昭和時代の3分の1となりました。教育の充実は、前述の魅力ある産業の創出と合わせて、若者の転出を減らし、転入を増やすためにも重要です。「子どもの数は寄居町の未来そのもの」。次世代育成は我々の大きな使命であり、教育は最も確実な未来への投資です。 ③三点目は健康長寿。「長生きするためには生きていくわけはない」「食べたいもの、やりたいことを我慢して長生きしたってつまらない」。確かにそうかもしれません。しかし、いざ大病を患って身体の不自由が利なくなったり、生死を左右

就任のごあいさつ

寄居町長 峯岸克明



よりい新時代へ

よりい新時代へ 令和4年8月28日をもって寄居町第8代町長に就任いたしました、峯岸克明でございます。どうぞよろしくお願いたします。 平成23年5月に寄居町議会議員に当選以来11年間、議員の立場から町の発展と町民福祉の向上に努めてまいりましたが、これからは、立場こそ変わりますが「ふるさと寄居町」にかける情熱は変わることはありません。町長として、先人が築かれた素晴らしい蓄積の上に「誇りある美しい町、寄居」を築いてまいります。 花輪前町長の8年間は、長年の懸案であった寄居駅周辺整備をはじめとする、中心市街地活性化を有言実行のもとに推進するとともに、健康長寿や教育の充実、女性の活躍推進に努められた実り多い8年間でありました。 また、想定外の出来事であった新型コロナウイルスにもいち早く対応され、ワクチン接種ではその先頭に立たれるなど、町民ファーストに徹した公正無私な姿は、権力におごらない、執行部の長としての真骨頂であったと思います。花輪前町長から学ばせていただいたことを、これからのまちづくりりに生かしてまいります。

実現するためには町民や地域団体、行政、民間事業者などの多彩な主体が地域社会を共に創る「共創の姿勢」が重要であると改めて認識したところであります。 私の基本姿勢であります「見ます・聴きます・話します 説明と納得のまちづくり」は、まさに現地現場主義であり、多くの皆様と現地対話をし、丁寧な説明を行ってきたこと、皆様の声を町政運営に反映してきたことは、まちづくりを進める上で最も大切にしてきたことの一つであります。 そういった意味で、私が進めてきたまちづくり、そして今日の寄居町の発展は、町民の皆様をはじめ、まちづくりに関わってきたすべての皆様との対話に基づくものであり、退任に当たり心に浮かぶ言葉は、皆様への「感謝」の一言に尽きます。今後も「共創の姿勢」が町全体に根付き、笑顔満タンで暮らしやすい寄居町をつくっていただきたいと願うとともに、これからは一町民として、生まれ育った寄居町の発展を見守ってまいります。 最後にありますが、寄居町の限らない発展と、町民の皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念申し上げます。退任のごあいさつといたします。 8年間、本当にありがとうございました。

するようなことに直面したときも、同じことが言えるでしょうか。「健康に我慢すること」ではありませぬ。親から授かった身体を大切に使うことこそ健康です。一度限りの人生。健康で長生きは、世代を超えた共通の願いであると思えます。楽しみながら、健康長寿が図れるよう努めてまいります。 新しい寄居が動き出す 昭和30年に現在の寄居町が誕生して以来67年。日本の経済成長とともに発展し、人口増とともに住民を増やしてきた我が町も成熟期を迎え、平成の30年間続いた少子化により、社会・産業・地域コミュニティなど、あらゆる分野の担い手不足が顕著になっていきます。 これまでのやり方が通用しない時代。しかし、寄居町を寄居町たらしめている産業・文化・伝統・自然を失ってはならないことは言うまでもありません。答えは「時代の変化に適応しつつ、核心を失わないこと」です。大きいもの、強いものが勝ち残るのではなく、変化に適応したものが残るのが自然の摂理。課題を解決し、長所を伸ばしていくことで着実な前進を図ってまいります。 寄居町の魅力を最大限に引き出すまちづくり。町民の皆様と共に、新たな時代を拓いてまいります。